

Windows コマンドライン基本手順

この資料に含まれている情報は、いかなる保証もない現状ベースで提供するものです。

株式会社ラックは、記載内容に関して一切の保証をいたしません。お客様は、本資料の使用に関するリスクを負うものとします。

このドキュメントに記載されている情報は、今後予告なしに変更・更新される場合があります。ここで使用される例は架空のものであり、説明のためだけに使用されます。

なお、本資料においては、文書の体裁上の都合により製品名の表記において商標登録表示、その他の商標表示を省略している場合があります。

2016年06月22日版

株式会社ラック

目次

1. コマンドプロンプトの起動と終了	3
1.1. コマンドプロンプトの起動.....	3
1.2. 管理者として起動	5
1.3. 起動確認と終了	6
2. カレントドライブとカレントディレクトリ	8
3. 便利な入力方法	9
3.1. 上下キーによる履歴参照	9
3.2. Tab キーによる入力補完	9
3.3. ドラッグ&ドロップによる自動入力.....	10

1. コマンドプロンプトの起動と終了

1.1. コマンドプロンプトの起動

Windows のコマンドライン操作にあたっては、コマンドプロンプトを開く必要がありません。コマンドプロンプトは Windows 標準で用意されており、何かを新たにインストールする必要はありません。本章では、Windows 7におけるコマンドプロンプトの開き方をいくつか紹介します。どの手順を使ってもコマンドプロンプトを開けますので、使いやすい手順を選んでください。

[手順1] スタートメニューからコマンドプロンプトを選ぶ

スタートメニューから [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンド プロンプト] を選びます。

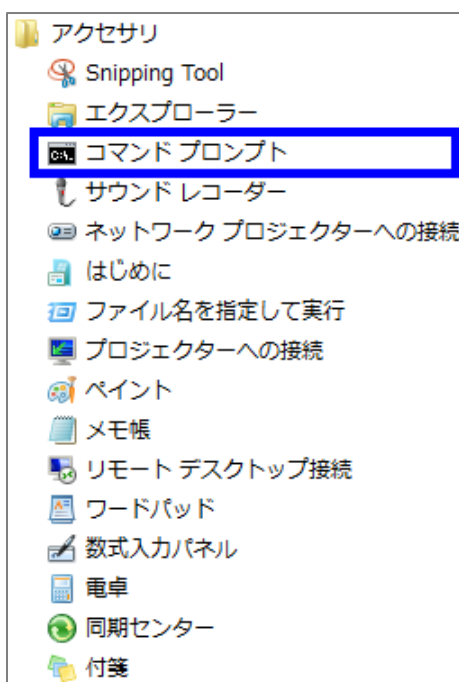


図 1: スタートメニュー内の [コマンド プロンプト] (Windows 7)

[手順2] スタートメニュー内で検索する

スタートメニュー内の検索欄に **cmd** と入力し、Enter キーを押します。

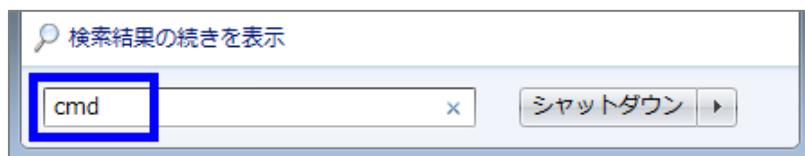


図 2：スタートメニュー内の検索欄に **cmd** と入力 (Windows 7)

[手順3] ファイル名を指定してコマンドプロンプトを開く

Windows+R キーを押し、[ファイル名を指定して実行] ダイアログを開きます。その中に **cmd** と入力し、Enter キーを押すか **OK** ボタンをクリックします。

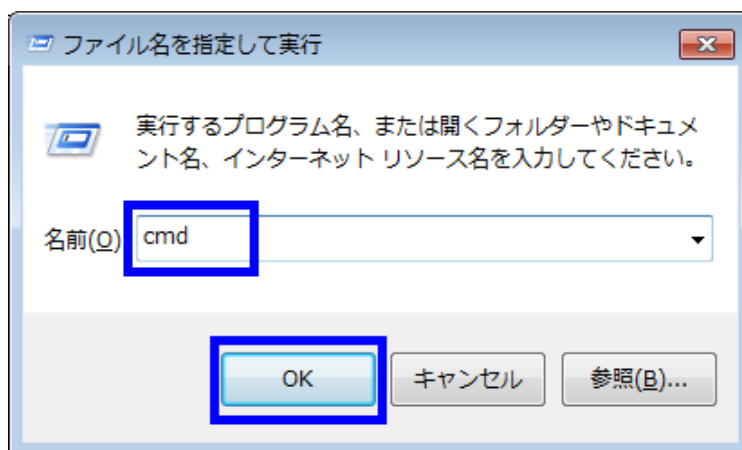


図 3：[ファイル名を指定して実行] ダイアログに **cmd** と入力 (Windows 7)

[手順4] エクスプローラの右クリックメニューからコマンドウィンドウを開く

Windows+E キーを押し、Windows エクスプローラを開きます。その中のドライブやフォルダを、**Shift** キーを押しながら右クリックすると、[コマンド ウィンドウをここで開く] メニューが出現するので、それを選択します。

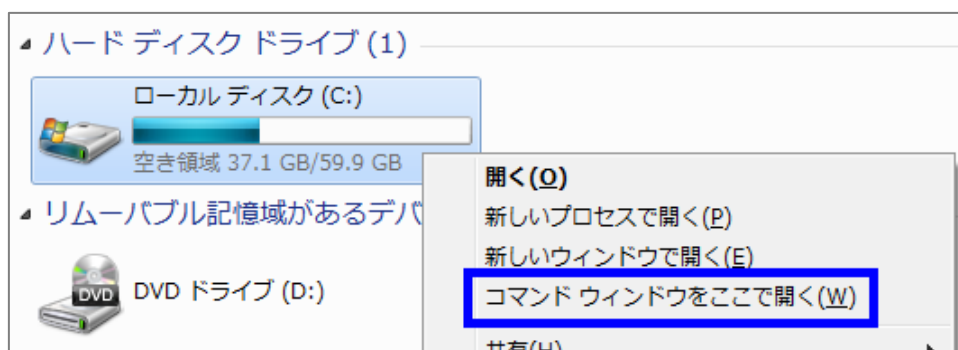


図 4: エクスプローラの右クリックメニューからコマンドウィンドウを開く (Windows 7)

1.2. 管理者として起動

作業内容によっては、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要があります。コマンドプロンプトを管理者として起動するには、次の方法があります。

[手順1] スタートメニューからコマンドプロンプトを選ぶ

スタートメニューから [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンド プロンプト] を選び、右クリックします。メニューから、[管理者として実行] を選択します。

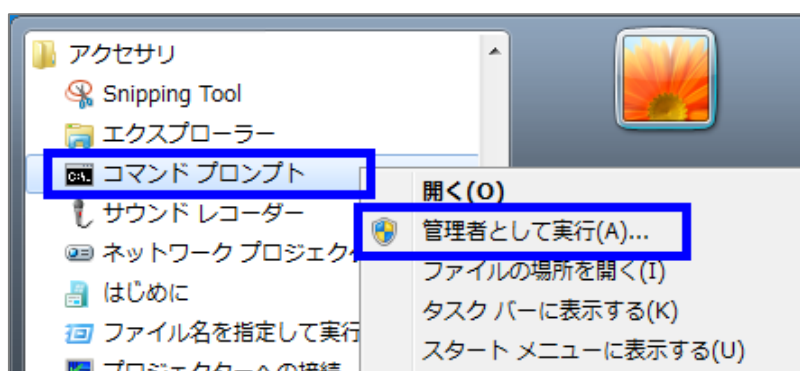


図 5: スタートメニュー内の [コマンド プロンプト] を [管理者として実行] (Windows 7)

このとき、以下の確認ダイアログが出現する場合があります。このときは [はい] を選択します。

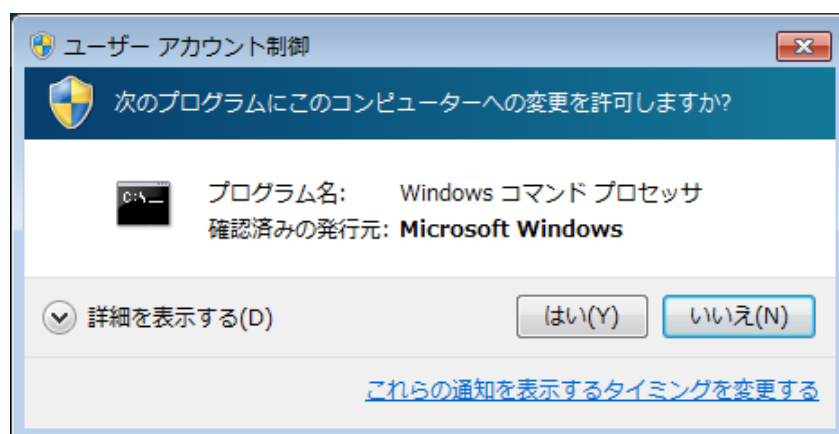


図 6：管理者として実行する際の確認ダイアログ（Windows 7）

1.3. 起動確認と終了

[手順1] 開いたコマンドプロンプトの確認

コマンドプロンプトを開くと、以下のようなウィンドウが開きます。

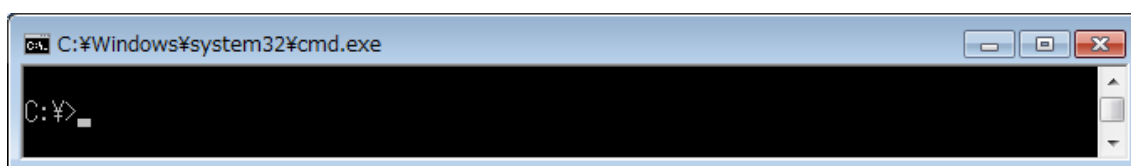


図 7：コマンドプロンプトのウィンドウ

このウィンドウは色を変更できます。デフォルトでは黒字に灰色の文字が表示されますが、たとえば以下のように白地の黒色の文字を表示することもできます¹。

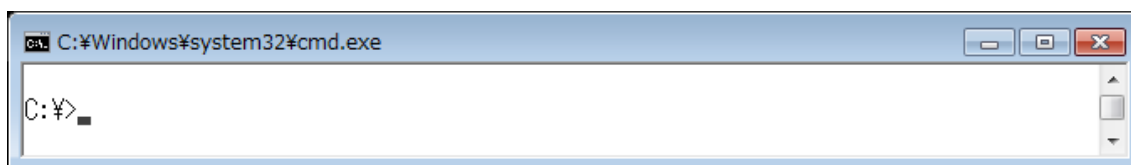


図 8：コマンドプロンプトのウィンドウ（色を変更）

ここで **C:\>** などと表示されているものをプロンプトと呼びます。プロンプトは、コマンドを入力可能であることを示しています。

¹ 本書では以降、白地に黒色の色設定とします。

もし、管理者として起動している場合は、タイトルバーに [管理者] と表示されます。

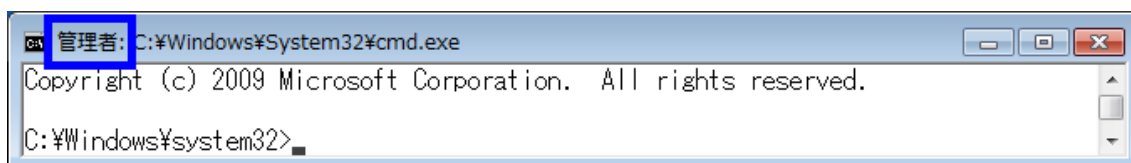


図 9 : 管理者として起動したコマンドプロンプトのウィンドウ

[手順2] コマンドプロンプトの終了

コマンドプロンプトを終了するには、右上の x ボタンをクリックするか、**exit** と入力して **Enter** キーを押します。終了するとウィンドウが閉じます。

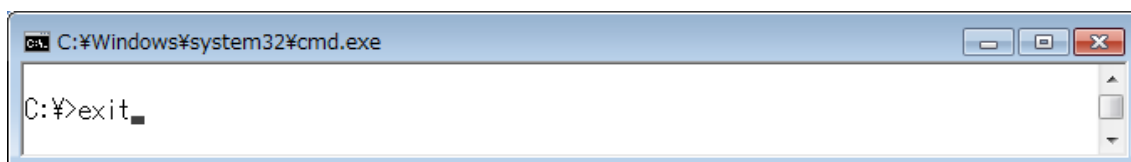


図 10 : コマンドプロンプトの終了

2. カレントドライブとカレントディレクトリ

コマンドプロンプトでの作業にあたっては、操作対象のドライブとディレクトリを意識する必要があります。現在の操作対象のドライブのことをカレントドライブ、現在の操作対象のディレクトリまたはフォルダのことをカレントディレクトリと呼びます。

通常、プロンプト内のアングルブラケット (>) の前に、カレントドライブおよびカレントディレクトリが表示されます。図 11 は、C ドライブがカレントドライブ、¥Windows がカレントディレクトリの場合の表示です。

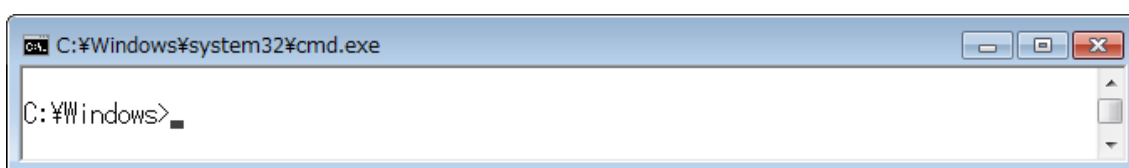


図 11 : C:¥Windows がカレントドライブ・カレントディレクトリ

カレントドライブを移動するには、ドライブ名の後にコロンを入力して **Enter** キーを押します。たとえば D ドライブに移動する場合には **D:** と入力して **Enter** キーです。

カレントディレクトリを移動するには、**cd** コマンドを使用します。**cd** の後にディレクトリ名を指定して **Enter** キーを押します。たとえば C ドライブの **Windows** ディレクトリに移動するには、絶対パス指定で **cd C:¥Windows** と入力して **Enter** キーです。もし、元々 **C:¥** がカレントドライブ・カレントディレクトリの場合には、単に **cd Windows** と相対パスで指定することもできます。図 12 は、カレントドライブを D ドライブに、カレントディレクトリを **¥tmp** に変更する例です。

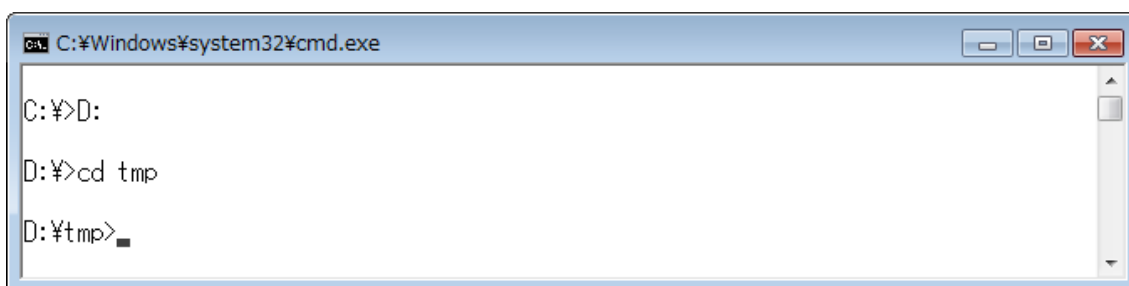


図 12 : カレントドライブを D ドライブに変更し、カレントディレクトリを ¥tmp に変更

3. 便利な入力方法

3.1. 上下キーによる履歴参照

類似のコマンドを繰り返ししたい場合、履歴参照が便利です。十字キーの上（↑）キーを押すと、前回入力したコマンドが自動入力されます。さらに前のコマンドを参照したい場合は、繰り返し上（↑）キーを押してください。もし上（↑）を押しすぎた場合は、下（↓）キーで戻ることができます。

3.2. Tab キーによる入力補完

コマンドプロンプト内でフォルダ名やファイル名を入力する際、途中まで入力して Tab キーを押すと入力補完機能が働き、候補となるフォルダ名やファイル名が表示されます。別の候補を表示したい場合はさらに Tab キーを押すことで、候補を切り替えることができます。

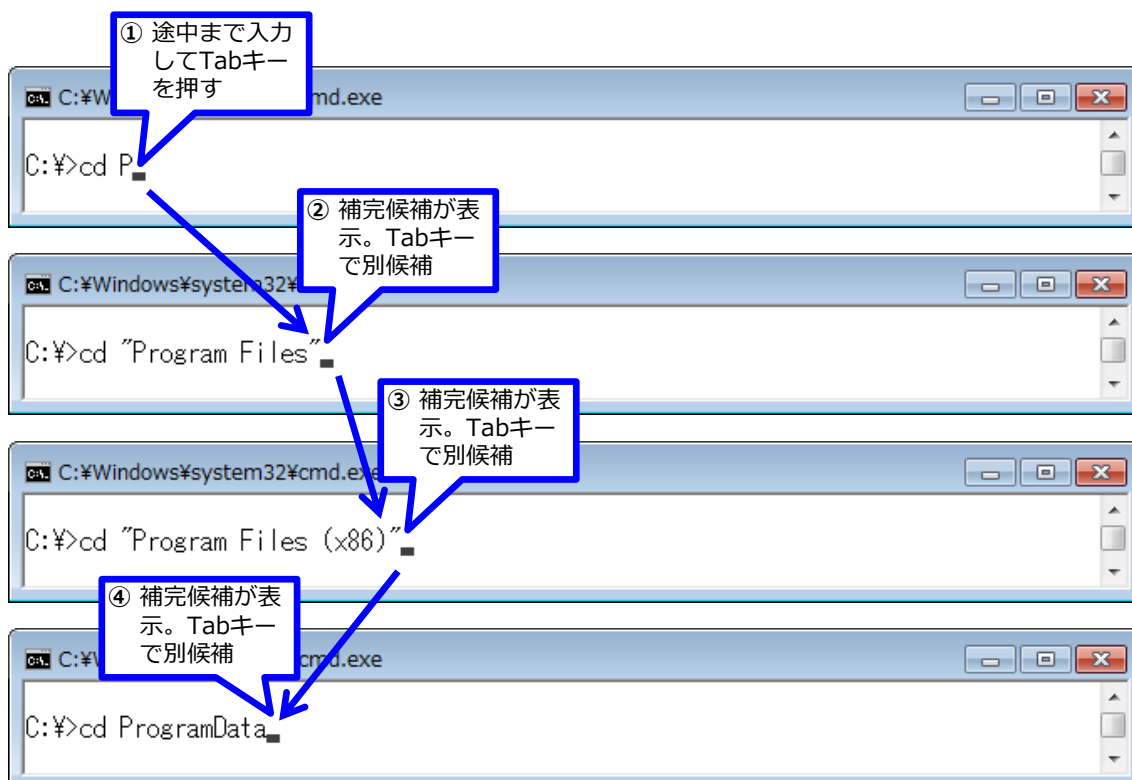


図 13 : Tab キーによる入力補完

目的の候補が表示された場合、そのまま入力を再開できます。

3.3. ドラッグ&ドロップによる自動入力

コマンドプロンプト内でフォルダ名やファイル名を入力する際、Windows エクスプローラからのドラッグ&ドロップにより自動入力できます。まず、①コマンドプロンプト内でフォルダ名やファイル名の直前まで入力してから、②Windows エクスプローラ内で目的のフォルダやファイルを掴み、③掴んだままコマンドプロンプト内に移動させ、④ドロップします。すると、⑤フォルダ名やファイル名が自動入力されます。図 14 は、フォルダ C:\¥Windows¥System32 を自動入力する例です。

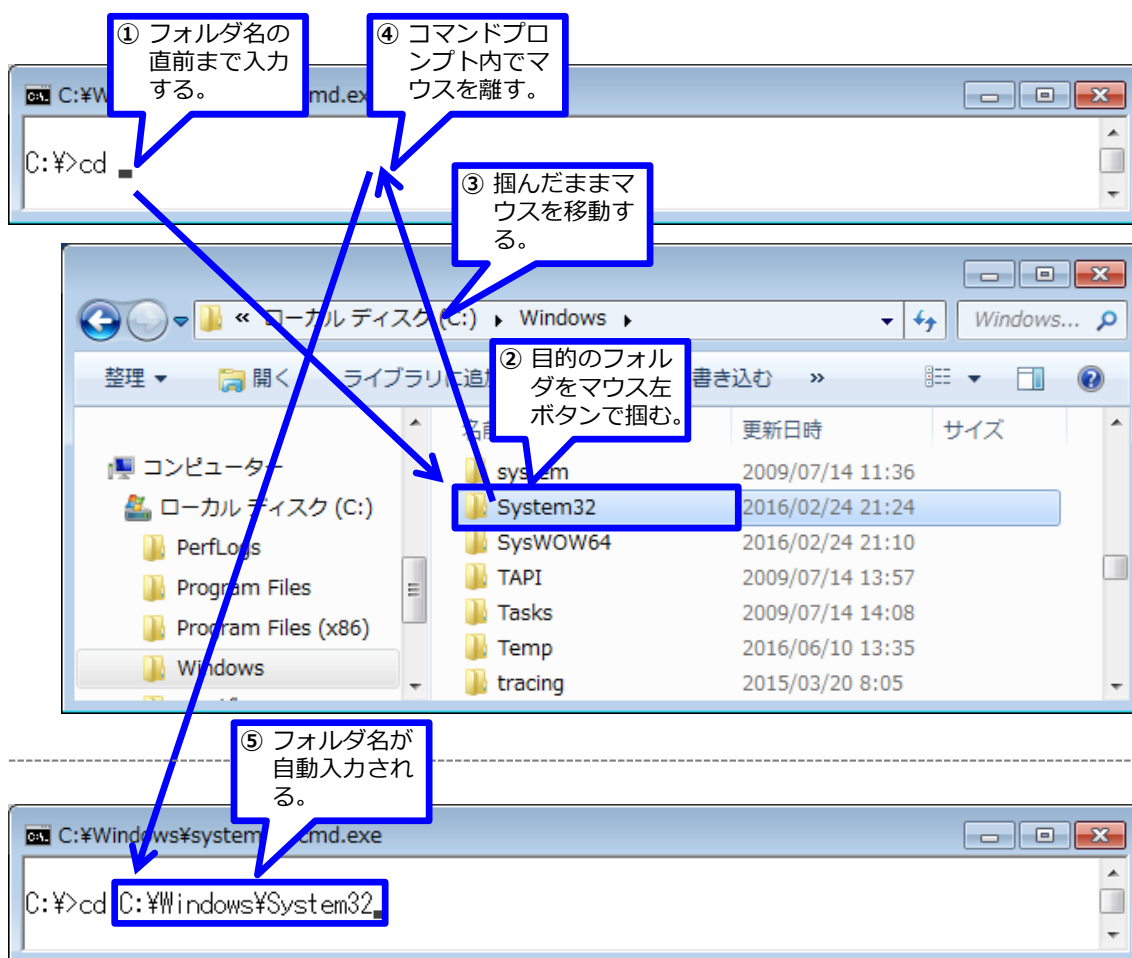


図 14：フォルダ名を Windows エクスプローラからのドラッグ&ドロップで入力

以上